

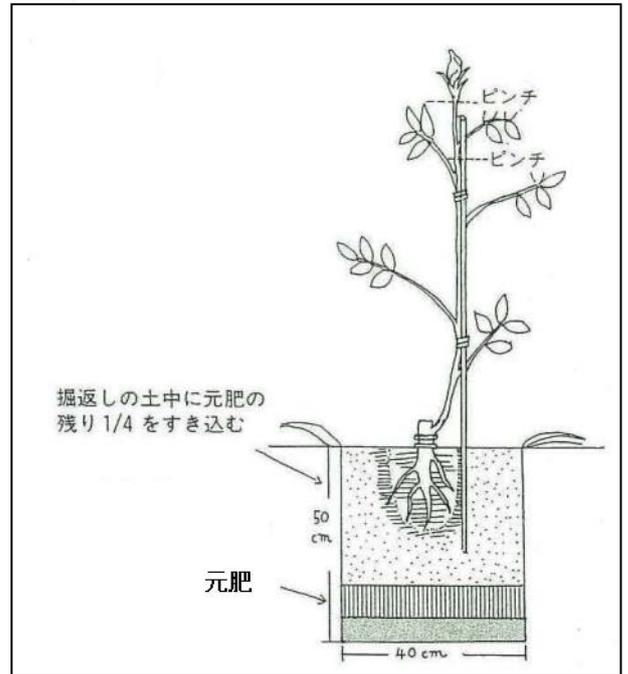
新苗の植え方

①地植えの場合

1. 日当たり、水はけが良く、近くに根を張った樹のない場所を選ぶ
2. 根を痛めないように苗を抜き、深植しないよう植え穴におさめ、必ず支柱をする。
3. 完全に活着するまで水はたっぷりやる。
4. 早く株を育てるため、摘蕾（ピンチ）を続け
9月頃まで花を咲かせない。
※将来の主要枝となる新梢（シュート）が根元から伸びてくるためこれのピンチを繰り返して育てる。
5. 秋に結束ビニールを取る。
6. 強風の場合は、ダンボール等で保護する。

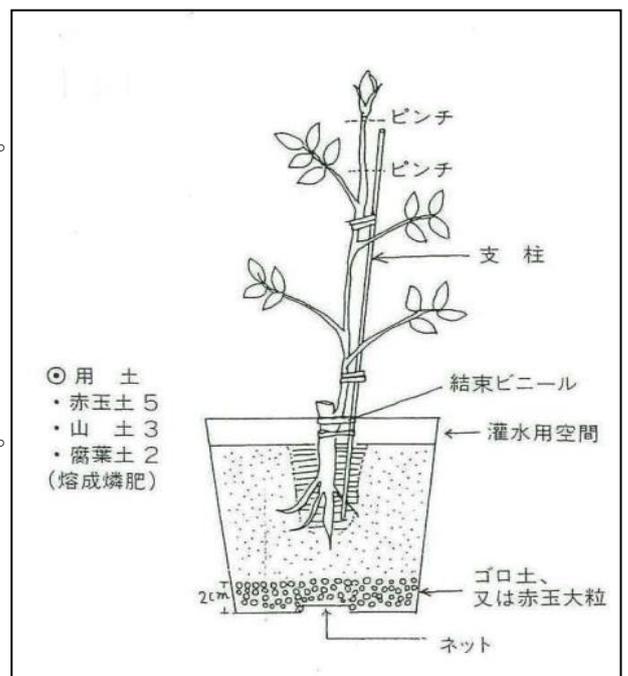
肥料

1. 元肥（もとごえ） 配合肥料 1kg、油粕 1kg、骨粉 1kg、ヨウリン 500g を混合して穴底に入れる。
配合肥料（7・7・7以上のもの）1kg、腐葉土 1kg の混合でも代用可。
2. 追肥（ついひ） 配合肥料または元肥の残りを適宜やる。



②鉢植えの場合（ミニバラも同じ）

1. 初年度は素焼鉢6号、7号、12月～翌2月に8号に植替え。ミニバラは6号。日当たりの良い場所に置く。
必ず支柱をする。
2. 早く株を育てるため、摘蕾（ピンチ）を続け
9月頃まで花を咲かせない。
※将来の主要枝となる新梢（シュート）が根元から伸びてくるためこれのピンチを繰り返して育てる。
3. 植土の中に肥料は混入しない。少量の熔成燐肥は良い。
4. 完全に活着するまで水はたっぷりやる。
5. 秋に結束ビニールを取る。
6. 植え付け半月後からハイポネックス 1000 倍液を 10 日に 1 回施す。固形肥料の場合は 6 月より、月 1 回施す。
7. ミニバラは、かなり株の中が混んでいるので風通しを良くして、すかすようにする。



用土

赤玉土（中粒）：山土：腐葉土（バーク）
→ 5 : 3 : 2

バラ(花)いっぱい・みどりいっぱいのまちに

1. 市民の花「バラ」

花とみどりのあふれる美しい都市づくりの推進と、明治百年記念事業の一環として、昭和43年に市民の皆さんと民間諸団体の協力のもとに、富士市を象徴するにふさわしい市民の木「クスノキ」、市民の花「バラ」が制定されました。

また、平成13年12月には、「ばらサミット」開催に向けて、富士市のオリジナルバラ「かぐや富士」が誕生しました。

2. みどりいっぱいのまちづくり

市は街路樹をふやしたり、生け垣づくりへの補助金を出したりするなど、みどりを大切にしたいまちづくりをめざしています。また、市民の花であるバラも、公園や学校などで大切に育てられています。

みなさまのご家庭でも富士市の花「バラ」を咲かせてみませんか？

【バラの種類】

- ☆四季咲大輪系・・・花径10～15cmの大輪花を咲かせます。香りの強い品種が他の系統よりも多いことも手伝って、バラ花壇の主演として親しまれている系統です。
(HT)
- ☆四季咲中輪系・・・花径5～11cm程の大きさですが花付きが良く、花で株が覆われます。多くの品種は房咲きなので、花が次々と咲き、花保ちが良いことも特徴です。
(FL)
- ☆つるバラ系・・・空間を活かして立体的にバラを演出できます。バラをたくさん咲かせて楽しむことができます。
(CL)
- ☆ミニアチュア系・・・花径2～5cmの小さな可愛らしい花を次々と咲かせます。品種によっては非常に花保ちの良いものもあり長く花を楽しめます。
(Min)

★日常管理

水やりは、渴いたら3日に1度程度を目安に行います。
肥料は、5月から10月にかけて月に2回化成肥料を20グラムずつ、11月から12月の間に1度、元肥を与えます。

